

## 「土佐湾パノラマウォークと鯉乃国」に参加

右城 猛

### まえがき

5月24日の日曜日、JR 四国主催の「駅からウォーク・土佐湾パノラマウォークと鯉乃国」というイベントがあった。9時40分にJR 安和駅に集合し、風光明媚なりアス式海岸を眺めながら県道320号久礼須崎線(旧国道56号)を通過して中土佐町の土佐久礼駅までの約11kmを約5時間半かけて歩くという企画。最初に竹細工の店「竹虎」を見物し、途中、双名島で昼食、そして鯉乃国「久礼」で青柳裕介像、八幡宮、大正町市場を見学する予定になっていた。

県道320号は、別名「断崖のみち」として知られ、落石対策のメッカと呼ぶにふさわしい道路である。その道路を、太平洋のパノラマを眺めながらみんなで歩くという企画が気に入り、妻と一緒に参加した。



高知県道320号久礼須崎線

### 落石対策のメッカ

中土佐町久礼から須崎市安和に至る県道320号は、別名「断崖のみち」。「高知国道56号落石事件」としても有名な道路である。

昭和38年に落石死亡事故があり、最高裁で道路管理者の瑕疵責任が問われ、国と高知県に賠償責任の判決が言い渡された事件である。わが国で本格的な落石対策が行われるようになったのは、

この落石事件からである。

県道320号には、ロックシェッド、ロックキーパー、片持ち式ロックキーパー、バリアー、S.P.C.ウォール工法、のり枠工、ストーンガード、覆い式ロックネット、ポケット式ロックネット、マイティネット、岩盤接着工法などが施工されている。さながら落石対策工法の見本市である。

腐食して落石対策の機能は失っているが、昭和40年頃に施工された日本初のポケット落石防護ネットもまだ残っている。当時、須崎土木事務所 of 技師をされていた田中忠夫氏によって考案されたものである。

高知県道320号は落石対策の発祥の地、落石対策のメッカと呼ぶにふさわしい路線なのである。



まるで落石対策工の見本市



日本初のポケット式ロックネット

### 県道320号をウォーキング

中土佐町の街中に車を駐めて、土佐久礼駅から9時33分発高知行きの汽車に乗る。安和駅には予

定通り 9 時 40 分に到着する。

汽車から降りると JR 四国の職員の方が、ウォーキングの受付をしていた。参加費用は一人百円。これは傷害保険代。参加者は 35 名。



土佐久礼駅のプラットフォーム



海は澄み切ってとても綺麗。浅瀬の岩場で貝を捕っている人を見かけた。



出発前にスタッフの方が行程を説明



浸食で洞門ができていいる小島



安和駅を 10 時に出発。竹細工の店「竹虎」でショッピングをし、国道 56 号と別れて県道 320 号に入る。



天気も良く素晴らしいパノラマ



落石のメッカらしい電光掲示板



須崎市と中土佐町の境・青木崎を過ぎたところで休憩



前方には日本サミコン製の PC ロックシェッドが見える



ロックシェッドの中は、落石の危険がない。



感動するようなパノラマ



ムール貝を捕っているおばさんたち。地元では、「カラスガイ」と呼ばれている。捕れたカラスガイは大正町市場で売られていた。



久礼湾の中ほどに羽をひろげたように浮かぶ二つの島。これが土佐十景の一つとされる双名島（ふたなじま）。別名「比翼島」

大正 9 年にここを訪れた大町圭月は、「一人ならば うれしからまし双名島 二つならびて 万代までも」と詠っている。

陸側の観音島には観音様が、沖側の弁天島には弁天様がそれぞれ祀られている。

陸地と二つの島は、堤防で結ばれているので、歩いて行くことができる。

双名島で昼食。卵焼きで有名な須崎市の「ショップたけざき」で買ってきた弁当を食べる。



双名島から見た国道 320 号



擁壁の頭部が海側へ傾き，路面が陥没している。



岩盤接着工法で補強された観音島



擁壁が傾斜したのは，根入れ部が洗掘され，支持力が低下したためと推察される。根固めが必要。



陸地と観音島を結ぶ堤防上に岩塊が 2 個転がっていた。



久礼の方から眺めた双名島



県道の直下の崖から抜け落ちたようである



落石を受け止めているポケット式ロックネット



ポケット式ロックネットの吊りロープが破断



受け止めた落石がポケット式ロックネットの裾から転げ落ちるのをストンガードが支えている。

### 青柳裕介氏の石像

土佐久礼を舞台にした漫画「土佐の一本釣り」の作者・故青柳裕介の石像が、久礼「ふるさと海岸」にある。久礼八幡宮の前である。

「土佐の一本釣り」は昭和50年より16年間にわたって小学館の漫画誌「ビッグコミック」に連載された。昭和56年には映画化もされ、「久礼」の地名を全国に広めた。この功績をたたえて石像が建立されている。



青い海と青い空を眺めてスケッチをとっている青柳裕介の姿の石像



石像の横の記念碑には下記の文字が刻まれている。

夢を育み 力与える大海原  
 その歩む道を 見守り続ける古里の山河  
 海を、山を、野を、川を、  
 愛してやまなかった ひとりの漫画家が  
 「我が人生悔いなし」と記し  
 悠久たる土佐の大自然へ還っていった  
 春夏秋冬 季節に移ろいがあるうとも  
 氏の行跡は 聊かも薄らぐことなし  
 後進する者らが ここに集い  
 万感の憶いをよせて  
 青柳裕介像 ここに建つ

平成15年12月

同士一同



石像の隣には、青柳氏がデザインをてがけた「鰻感謝供養碑」がある。

## 久礼八幡宮

久礼の漁師さんの守り神である八幡宮は久礼の中心部にある。

境内には樹高約 30m の大楠,ミカドアゲハの食用となる小賀玉(おがたま)の木などの大木が木陰をつくっている。

宝永 4 年(1707 年)の大地震・大津波で,社殿の柱が一本も残らない流失に合い,棟札,古記録,宝物,約 200 人の浦人とともに無くなったという記録がある。現在の社殿は,文政 8 年(1825 年)に再建されたもの。江戸時代後期の建築様式を伝えるものとして貴重である。



八幡宮の鳥居



八幡宮本殿



巨石の真ん中をくりぬいた「厄ぬけ石」

## 大正町市場

大正町市場(たいしょうまちいちば)は,久礼の真ん中にある。漁師のおかみさんたちが,夫や息子のとってきた魚を売り出したのが始まりと言われている。

市場名の由来は,大正 4 年に市場周辺が大火にあい,大正天皇から当時のお金で 350 円が復興費として届けられたこと。町民はこれに感動し「地蔵町」という名を「大正町」に改めた。

現在の市場は,平成 15 年 12 月に木造アーケードとしてリニューアルされている。



大正町市場の正面入り口



天井から大漁旗が吊り下げられている



「市場のめし屋 浜ちゃん」では,美味しい鰹丼を食べられる。



市場の中では、新鮮な魚・野菜・果物のほかに手作りの姿寿司やお惣菜なども売られている。



田中鮮魚店の店主・田中隆博氏が、鰹を藁で焼いてタタキを作るのを見せてくれた。ウォーキング参加者のために準備してくれていたようである。できた鰹のタタキは、店の中で試食させてくれた。焼きたてはことのほか美味しい。

ウォーキングは 14 時に大正町市場で解散。市場でイカの一晩干し、カマスと鯛の一晩干し、クレ天を買って帰る。

### あとがき

今回は妻や参加者と一緒に仕事を忘れて、ウォーキングを楽しむつもりであった。しかしながら、落石が転がっていけば、どこからどのように発生したのかが気に掛かった。落石防護ネットに変状があれば、原因は何だろうか、どのように改善すれば良いだろうかと考えてしまった。路面が陥没していれば、やはり気になって原因は擁壁根入れ部の洗掘に違いないと立ち止まって確認をせずにはいられなかった。このようなことで、ウォーキングの一行から遅れてしまい、JR 四国のスタッフの方には大変ご迷惑を掛けてしまい、申し訳なく思っている。

県道 320 号は、若い土木技術者が落石対策技術

を学ぼうとすれば、世界一優れた現場である。土木学会や地盤工学会などで企画して、講釈をたれたり、「ワイワイ・ガヤガヤ」言ったりしながらみんなで歩けば楽しいに違いない。

10kmの道のりを歩いた後で大正町市場に行き、そこで生ビールを飲みながら焼きたての「鰹の藁焼きタタキ」を食べてもらえば、参加したものは土佐の素晴らしさにきっと感動することだろう。この企画、何とか実現させたいものである。

最近、私は紀行文を書く際に、インターネットから情報を得ている。インターネットで検索していて気がついたことがある。いま元気がある店は、ホームページを上手く活用し、店頭販売だけでなくインターネットによる通信販売をしているということである。

店の外観からはとても想像できないような立派なホームページが作られているのである。

### 「ショップたけざき」のホームページ

朝、弁当を買った店。道の駅「かわうその里すさき」の近くの新莊川に架かる橋を渡った先にある黄色の看板がある店。分厚くてプルンプルンで、ジューシーな玉子焼きが大人気。

<http://www.umaitosa.com/shop-takezaki/index.html>

### 虎斑竹専門店「竹虎」のホームページ

<http://www.rakuten.ne.jp/gold/taketora/>

### 大正町市場のホームページ

<http://www.dokuremon.com/>

(2009年5月25日・記)